災害時における給食施設の役割と平常時からの備え

川崎医療福祉大学　臨床栄養学科
小椋　いずみ



- 明日の朝、大雨特別警報が発表されたら？
- 職員が出勤できなかったら？
- 食材が届かなかったら？
- 停電したら？
- 断水したら？
- 厨房が使えなくなったら？
- 利用者の嚥下調整食やアレルギー食はどうする？

「自分の施設では、何食目まで給食を提供できる？

本日の内容

01 岡山県北部で想定すべき災害
02 災害時に給食施設に求められる役割
03 災害時に給食施設で起こること
04 平常時からの備え
05 ミニ演習
06 まとめ

01 岡山県北部で想定すべき災害

01 岡山の過去の災害

平成10年10月　台風10号豪雨

・10月17～18日にかけて台風10号が上陸し、吉井川流域に被害をもたらした
・津山雨量観測所の17日21時～18日1時までの4時間雨量は157mm
・確率的には100年に1回程度に発生するような記録的な集中豪雨
・死者4名、行方不明者1名、負傷者15名、全壊11世帯、半壊・一部損壊122世帯、床上浸水2175世帯、床下浸水2810世帯
・津山市、柵原町、吉井町、および佐伯町をはじめ各地で大きな被害

01 岡山の過去の災害

平成30年7月　西日本豪雨

・6月28日から7月8日にかけて、梅雨前線や台風7号の影響で、総降水量が多いところで1,800㎜を超える記録的な大雨になった
・全国の死者は237人（広島115人、岡山66人、愛媛31人）
・岡山県では倉敷市真備町で川の堤防が決壊し甚大な被害が出た

01 岡山の過去の災害

平成30年7月　西日本豪雨
まび記念病院の被害・対応

・4階建ての1階部分が完全に水没し、病院機能が停止
・入院患者76人、施設利用者16人、近隣の避難者212人、職員31人が取り残された
・7月7日（土）時点では2日間の食料は確保されていた（患者、施設利用者、職員用）
・救援物資が届いたのは7日の深夜
　近くまで運ばれていたが、病院まで輸送できなかった

01 岡山県北部で想定される災害





地震　大雨

洪水　大雪





５段階の警戒レベルと防災気象情報

気象状況	気象庁等の情報		市町村の対応	住民がとるべき行動	警戒レベル
災害の切迫・発生	キキクル	河川氾濫、大雨、土砂災害、高潮			
	災害切迫	レベル５特別警報（警戒レベル５相当情報）	緊急安全確保 ※必ず発令される情報ではない	命の危険　直ちに安全確保！ ・すでに安全な避難ができず、命が危険な状況。いまいる場所よりも安全な場所へ直ちに ・移動等する。	5
2時間～0時間程度前			＜警戒レベル４までに必ず避難！＞		
	危険	レベル４危険警報（警戒レベル４相当情報）	避難指示 第４次防災体制（災害対策本部設置）	危険な場所から全員避難 ・台風などにより暴風が予想される場合は、暴風が吹き始める前に避難を完了しておく。	4
数時間～3時間程度前	警戒	レベル３警報（警戒レベル３相当情報）	高齢者等避難 第３次防災体制（避難指示の発令を判断できる体制）	危険な場所から高齢者等は避難 ・高齢者等以外の人も必要に応じ、普段の行動を見合わせ始めたり、避難の準備をしたり、自主的に避難する。	3
半日～数時間前	注意	レベル２注意報（警戒レベル２）	第２次防災体制（高齢者等避難の発令を判断できる体制） 第１次防災体制（連絡要員を配置）	自らの避難行動を確認 ・ハザードマップ等により、自宅等の災害リスクを再確認するとともに、避難情報の把握手段を再確認するなど。	2
数日～約１日前		早期注意情報（警戒レベル１）	・心構えを一段高める ・職員の連絡体制を確認	災害への心構えを高める	1

市町村は、防災気象情報などを参考に避難情報を発令

「避難情報に関するガイドライン」（内閣府）に基づき気象庁において作成

防災気象情報と警戒レベルとの対応について｜気象庁

●雪に関する注意報・警報

＊気温は岡山地方気象台、津山特別地域気象観測所の値

注意報・警報の種類		津山市での発表の基準（令和5年6月8日現在）岡山地方気象台
注意報	大　雪	12時間の降雪の深さ　平地10cm、山地25cm
	なだれ	①積雪の深さ20cm以上あり降雪の深さ30cm以上 ②積雪の深さ50cm以上あり最高気温12℃またはかなりの降雨＊
警　報	大　雪	12時間降雪の深さ　平地25cm、山地45cm
特別警報	数十年に一度の降雪量となる大雪が予想される場合	

02 災害時に給食施設に求められる役割

02 災害時、給食施設にはどんな役割があるか

命を守る

- エネルギー・水運の確保
- 脱水・低栄養の予防
- 嚥下機能に応じた食事
- 疾患・アレルギーへの配慮

生活を維持する

- 可能な限り普段に近い食事
- 食事リズムの維持
- 食べ慣れた食品の活用

要配慮者を守る

- 高齢者
- 乳幼児
- 嚥下障害者
- 食物アレルギー
- 糖尿病・腎疾患などの患者
- 経管栄養患者

地域を支える

- 施設内だけではなく、地域地の中の給食施設としての役割
- 他施設との連携
- 行政・保健所と情報共有

「非常食を出すこと」と「給食を継続すること」の決定的な違い

	単なる非常食の提供	給食の継続（プロの役割）
目的	飢えをしのぐ（カロリーの確保）	生命・健康・生活の維持（栄養・嚥下状態への配慮）
対象	一般の健常者	高齢者・乳幼児・慢性疾患などの要配慮者
運用	誰でも配ることができる	専門職による衛生・栄養管理が必須

⚠ 要配慮者にとって、不適切な食事形態は「誤嚥・低栄養・ストレス」など命の危険に直結します。

Gemini Notebook

発災直後から「適切な栄養と食事」を継続することが、最大のミッションです。

物理的インフラの崩壊



ライフライン（電気・ガス・水道）の遮断



物流の停止・食材枯渇

命と健康の継続



健康状態（低栄養・ストレス）の悪化防止



安定した食事提供の継続

「平時から食料の備蓄や対応方法の整理など体制の整備に努める必要がある」
（厚生労働省通知 健健発0331第2号 より）

結論：給食部門単独ではなく、施設全体のBCP（事業継続計画）として取り組む必要があります。

Gemini Notebook

03 災害時に給食施設で起こること

03 実際に地震が起こったら…

発災直後

- 厨房の安全確認
- 火災・ガス漏れ
- 食器・調理器具の破損
- 冷蔵庫・冷凍庫
- 水・電気・ガス

数時間後

- 職員が集まらない
- 食材納品がない
- 調理できない

24時間後

- 食事提供が必要
- 備蓄食をどう使う？
- 誰に何を食べてもらう？
- とろみ剤や経管栄養剤

3日後

- 備蓄が減ってくる
- 食事内容が単調
- 便秘、脱水、低栄養
- 慢性疾患への対応

03 豪雨、洪水、土砂災害が起こったら…

大雨予報

↓

警戒レベル上昇

↓

避難・職員確保

↓

物流停止の可能性

↓

停電・断水・浸水

↓

復旧

水害なら「72時間」だけで考えない

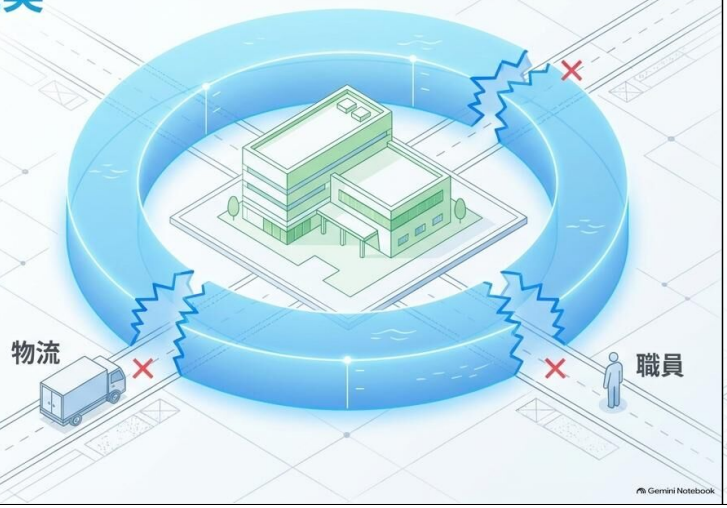
「災害が起きてから考える」

「災害が来る前に給食をどうするか
決めておく」

豪雨・水害がもたらす「孤島化現象」の現実

【地震】
ハード(建物・設備)の破壊が突発的に発生。

【水害】
ハードは無事でも、周囲のアクセス(道路)が水没し、物流と人が完全に途絶える。



Gemini Notebook

見えない最大の脅威：断水による衛生環境の崩壊

断水 → 手洗い・洗浄の困難 → 衛生環境の悪化 → ノロウイルス・食中毒の発生

厚生労働省ガイドラインに基づく災害時ルール

- 災害時は食中毒リスクが急増。衛生環境の崩壊は施設の崩壊を意味する。
- 食材は極力、中心温度85℃以上で1分間以上の加熱。生食（サラダ等）は絶対に避ける。
- 下痢・発熱のある職員の調理従事制限を徹底する。

Gemini Notebook

04 平常時からの備え

平常時から構築する「4つの防衛線」



柱① 体制整備：「誰が」「何を」決断するのか

- **指揮命令系統の多重化**
  夜間・休日被災、リーダー不在時の**代行者の事前決定**
- **複数ルートの連絡網**
  電話、メール、SNS、緊急防災無線の組み合わせ
- **初動状況チェックシートの常備**
  施設破損、ライフライン、職員安否、備蓄残量を**迅速に把握**



社会医療法人 緑壮会 金田病院



- 稼働病床：120床
  （一般病床：60　医療療養病床：22　地域包括ケア病床：38）
- 診療科：内科、外科、整形外科、血液・腫瘍内科
- （財）日本医療機能評価機構認定病院
- 給食形態：直営

災害発生時（フローチャート）

災害発生

（ア）災害状況の確認
1，給食部門の状況
・人員の状況
・ライフライン（電気、ガス、水道）
・施設設備（調理機器、調理器具、食器等）
・配膳関係（エレベーター、配膳車、配膳ルート）
・通信手段（電話、FAX、パソコン）

2，利用者の状況

3，納入業者等の状況

→ **（イ）施設長への報告**

↓ 食事提供の可否判断

↓ 食事提供の可否判断

↓ **（ウ）復旧状況に応じた対応**
フェーズごとの対応
災害時対応記録の作成

↙ **（エ）**　↘ **（オ）**

災害発生時（フローチャート）

（エ）自力で食事提供が可能な場合
【電気が使えない場合】
・ガスを熱源とする調理機器で調理

【ガスが使えない場合】
・電気を熱源とする調理機器で調理

【水が使えない場合】
・缶詰、レトルト食品の利用
・冷蔵庫内の在庫食品を早めに使用する
・使い捨て食器を使用する
　食器にラップやアルミホイルを敷く

【ガスが使えない場合】
・電気を熱源とする調理機器で調理

・缶詰、レトルト食品の利用
・冷蔵庫内の在庫食品を早めに使用する
・使い捨て食器を使用する
　食器にラップやアルミホイルを敷く

【全て使えないとき】
・非常食を利用する
・使い捨ての手袋を使用する
・使い捨て食器を使用する
　食器にラップやアルミホイルを敷く

（オ）自力での食事提供が不可能な場合

○代替給食
　（外部からの搬入）
○物的支援、人的支援の要請

※外部（提携施設）への支援要請については、施設内のルールに従う

被災状況チェック表

出勤できるスタッフの確認

ライフラインの確認

施設の被災状況の確認

チェック月日・時刻	西暦　年　月　日（　）	午前・午後　時　分
記入者	職種（管理栄養士・事務・その他　）	名前
人員状況	出勤可能者	給食提供の可否
	管理栄養士　人	
	調理者　人	可・否

被災状況				
項目		使用の可否	使用できない場合の対応	その他
ライフライン	電気	可・否	□自家発電　□無	
	ガス	可・否	□電気調理器　□無	
	水道	可・否	□備蓄水　□無	
施設	調理室	可・否		
	エレベーター	可・否		
	冷蔵庫の使用	可・否		
	冷凍庫の使用	可・否		
	調理機器	可・否		
	調理器具	可・否		
	食器	可・否	□ディスポ食器	
	職員食堂	可・否		
	配膳車	可・否		
	配膳ルート	可・否		
食材　備蓄食品	調理済食品	可・否	月　日（朝・昼・夕）使用	
	納入済食品	可・否	月　日（朝・昼・夕）使用	
	在庫品	可・否	月　日（朝・昼・夕）使用	
	非常用食品	可・否	月　日（朝・昼・夕）使用	
	飲料水	可・否	月　日（朝・昼・夕）使用	
	調理水	可・否	月　日（朝・昼・夕）使用	
通信手段	電話	可・否		
	FAX	可・否		
	パソコン	可・否		
給食実施状況		□非常時対応　□休止　□通常給食		
職員食の実施		□有（　）食　□無		
その他				

喫食者の状況確認一覧表

患者の被災状況を確認

実際に何人分の食事が必要なのか把握

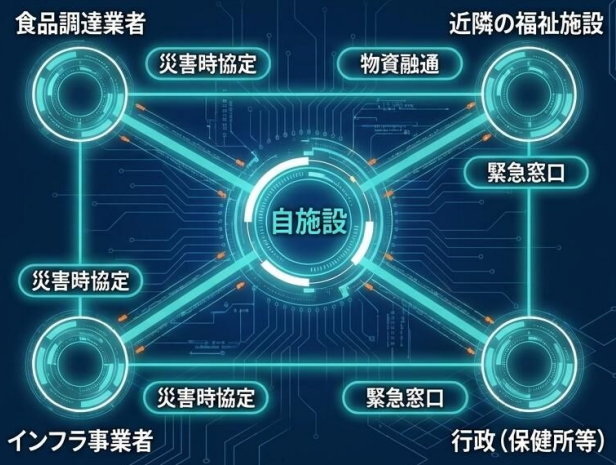
喫食者の状況確認一覧表

確認日時：　月　日　時
報告者：（　）

名称	被災状況				必要食事数			
	人数	死亡	重症	軽傷	非常食	嚥下食	経管栄養	その他
一般								
療養								
包括								

柱① 外部連携：孤立を防ぐ「ネットワーク」

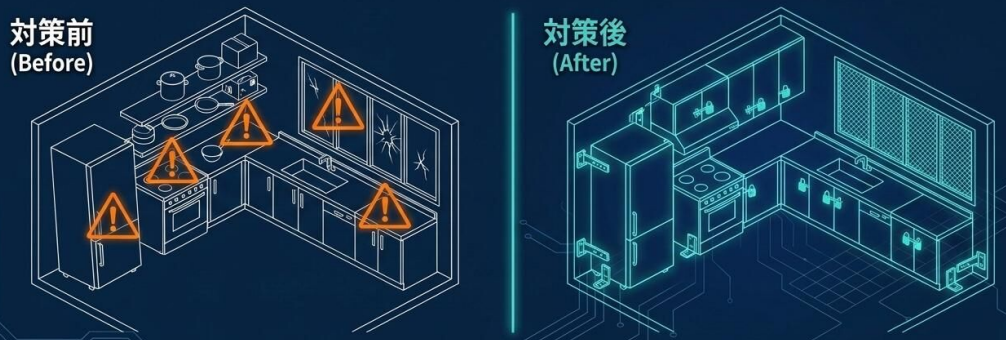
- **サプライチェーンの確保**
  食品調達業者・インフラ事業者との**災害時協定**の締結
- **水平連携の構築**
  近隣の福祉施設同士での物資融通ルールの策定
- **公的支援への接続**
  行政（保健所等）との緊急連絡窓口の平時からの確認



Gemini Notebook

柱② ハード対策：厨房を「凶器」にしない

- **転倒防止**：大型機器（冷蔵庫・オーブン等）、ロッカーの確実な**壁面・床面固定**
- **飛散・散乱防止**：食器棚の扉ロック機構、窓ガラスへの**飛散防止フィルム**貼付
- **落下防止**：天井・高所からの落下物（照明器具等）の点検と対策



Gemini Notebook

	通常時	第一代替案	第二代替案
水の確保（最優先）	水道	受水槽（貯水タンク）の容量・点検確認	井戸水・協定に基づく給水車ルート
熱源・電気の確保	都市ガス・商用電力	非常用発電機（＋燃料確保）	LPガスバルク貯槽（災害に強い）・カセットコンロ

Gemini Notebook

柱③ 備蓄マトリクス：誰に、どれだけ必要か

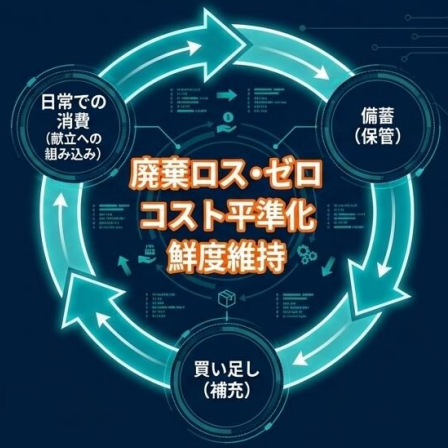
対象者	推奨備蓄期間	食品の特性と必要な配慮
一般利用者・職員	最低3日～目標1週間	通常の非常食（アルファ化米等）簡易提供・カロリー確保
要配慮者	**最低1～2週間**	ソフト食・粉ミルク・アレルギー対応食、咀嚼・嚥下機能への配慮専用品の確実な確保

- 施設利用者および常駐職員分の全量確保が基本
- 高齢者・乳幼児・慢性疾患患者は長期化リスクを見据え「2週間分」を強く推奨
- アレルギー対応食、とろみ剤、経管栄養剤は外部からの調達が最も困難

Gemini Notebook

柱③ 循環システムとしてのローリングストック

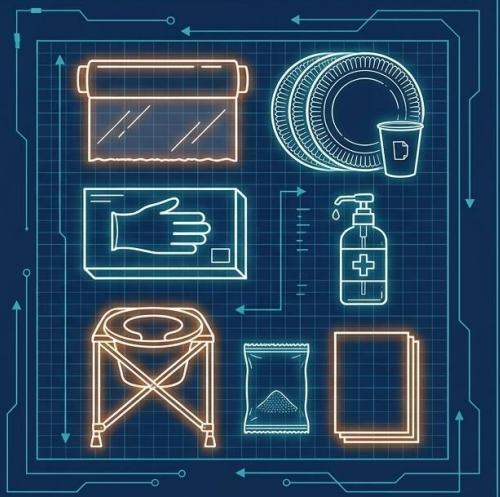
- 備蓄を「しまい込む」ものから、日常業務に「組み込む」ものへ
- 賞味期限切れによる廃棄ロスを完全に防ぐ
- 月に1〜2回、日常の献立に非常食メニューを採用する
- 最大のメリット：「食べ慣れた味」を提供することで、災害時の利用者の心理的ストレス・拒食を軽減



Gemini Notebook

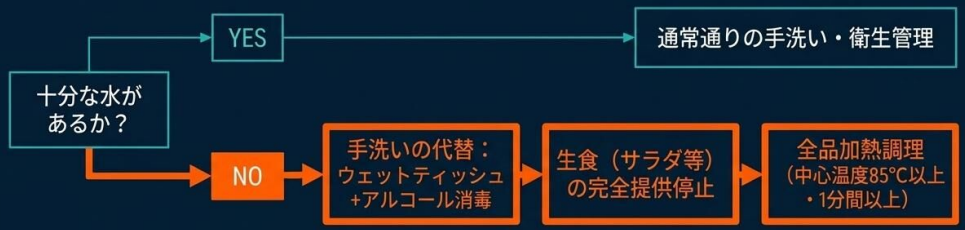
柱③ 非食品備蓄：水を使わないオペレーション

- 洗い物ゼロ原則：断水時は「洗い物を出さない」ことが最大の防御
- 食器にラップを敷いて提供し、ラップのみを捨てる運用の徹底
- 使い捨て容器（紙コップ、紙皿）、食品用手袋の大量備蓄
- ウェットティッシュ、アルコール消毒液の確保
- 衛生管理の盲点：職員用の「簡易トイレ」の確保（トイレ環境の悪化が感染症を引き起こす）



Gemini Notebook

柱④ 災害時トリアージ：衛生基準の死守



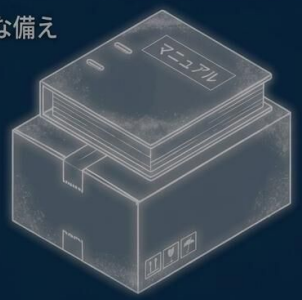
- 手洗いの代替手段：汚れを物理的に拭き取り、アルコール消毒で補完
- 加熱の絶対原則：中心温度85℃以上・1分間以上の加熱（ノロウイルス対策）。生食は全面禁止
- 健康チェックの徹底：下痢、発熱、手指の傷がある職員は、人手不足でも絶対に調理・配膳から外す（防波堤）

Gemini Notebook

「想定外」を潰す：なぜ食事提供訓練か

- 最新のガイドラインで「食事提供訓練」の実施が明記・重視
- 知識の定着ではなく、マニュアルの「バグ（欠陥）」を見つけるための訓練
- 頭でわかっていることと、暗闇・断水下でできることのギャップを埋める

静的な備え



静的な備え：マニュアル、備蓄等の物理的準備

動的な備え



動的な備え：訓練、実践、改善のサイクルによる継続的進化

訓練：実際の状況を想定したシミュレーション
実践：訓練での気づきを反映した実動
改善：結果に基づきマニュアル・計画を見直す

Gemini Notebook

計画の「穴」を見つける、実践的な食事提供訓練

大阪市の手引き（令和8年改訂版）等でも重要視されるアプローチ

非常食の試食会

実際に備蓄しているアルファ化米などを調理。水で作る際の時間、味、そして何より高齢者でも安全に飲み込める咀嚼・嚥下レベルの適合性を職員全員で確認する。



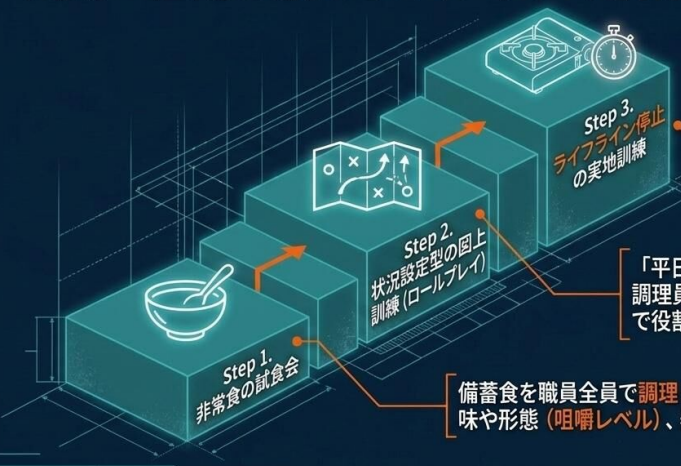
図上訓練（ロールプレイング）

会議室にて「断水・停電・職員半減」などの付加シナリオを与え、時系列での動きや判断をシミュレーションし、マニュアルの現実性を検証する。



Gemini Notebook

実践：組織を鍛える3ステップの訓練



備蓄食を職員全員で調理・試食し、味や形態（咀嚼レベル）、器具の使い方を評価

「平日14時、震度6強、断水、調理員2名負傷」等、過酷なシナリオで役割分担をシミュレーション

カセットコンロのみ、備蓄水のみで1食分を実際に調理・配膳する

Gemini Notebook

レジリエンスのPDCAサイクル



Plan: 柱①
マニュアルと体制の整備

Do: 柱②③
ハード対策とローリングストック

Check:
食事提供訓練による課題抽出（バグ出し）

Act:
マニュアルと備蓄計画の年次アップデート

- 本日の4つの柱と訓練を循環させる
- 年に1回、必ずマニュアルと備蓄リストをアップデートする
- 変化する利用者の要件に合わせてシステムを成長させる

Gemini Notebook

施設長、管理栄養士、調理師の役割

項目	施設長	管理栄養士	調理師・調理員
基本的な役割	意思決定・体制整備	栄養・献立管理	調理・衛生管理
備蓄	予算・整備の決定	必要量・内容の検討	保管・使用方法の確認
献立	提供方針の決定	非常時用献立の作成	調理方法・作業工程の検討
人員	配置・応援体制の決定	必要な人員や業務の調整	調理作業の分担・効率化
食事提供	継続・中止の判断	栄養・個別対応の調整	安全な調理・盛り付け
衛生管理	必要な体制・資源の確保	衛生管理方針の調整	調理現場での衛生管理
訓練	実施体制の整備	献立・栄養面の検証	調理実習・作業手順の検証

05 もし明日災害が起こったら…

【ミニ演習】7月の平日、忍び寄る水害のシナリオ



給食管理者として、あなたはどう動きますか？

Gemini Notebook

Q1.発災直後の初動

現時点で断水なし。今日の夕食に向けて、今すぐ指示すべき優先事項は？

Q2.翌日の物流リスク

道路冠水により、明日の届くはずの「生鮮食品」が未納になる可能性が高い。どう対応する？

Q3.職員不足

早退者が出て、明日の早番スタッフも出勤できない。
半分の人数でどう対応する？

Q4．衛生管理

ついに断水が発生。限られた水でどう食中毒を防ぐ？

管理者、管理栄養士、調理師として どう行動しますか？

Q1.発災直後の初動

Q2.翌日の物流リスク

Q3.職員不足

Q4.断水時の衛生管理

Q1：発災直後の初動

現時点で停電・断水はしていない。
今日の夕食に向けて、今すぐ指示すべき「最優先事項」は何か？

【Point】
浴槽やポリタンクへの水の確保（水の汲み置き）、炊飯の前倒し。

Q2：翌日の物流リスク

道路冠水により、明日の朝届くはずの「生鮮食品」が未納になる可能性が高い。どう対応する？

【Point】
メニューの即時変更（備蓄品・冷凍品への切り替え）、献立の簡略化。

Gemini Notebook

Q3：職員不足の中での提供

早退者が出て、明日の早番スタッフも出勤できない。
半分の人数でどう食事を提供する？

【Point】
品数の削減、使い捨て食器の活用による「洗浄作業」の大幅カット。

Q4：断水時の衛生管理

ついに断水が発生。
限られた水で、どう食中毒を防ぐか？

【Point】
ウェットティッシュ・手指消毒剤の活用。
徹底した加熱（中心温度85℃・1分以上）。
手作業を減らす調理法。

Gemini Notebook

完璧な正解よりも、プロセスの共有が命を救う

災害時に「想定通り」進むことは絶対にない。



誰が判断し、何を優先し、何を諦めるか（品数や見た目など）を平常時からチームで合意しておく。

訓練を通じてチーム内に「共通言語」を持つことこそが、最大の防御となる。

Gemini Notebook

点の備えを線の計画へ。それが「BCP」の正体



【厚生労働省通知（健健発0331第2号）より】
災害発生時であっても適切な栄養管理を行うため、平時から体制の整備に努める必要がある。

給食の継続は、一部署の努力ではなく、**施設全体の事業継続の中核**です。
施設長・経営層を巻き込んだ**全社的プロジェクト**へと昇華させましょう。

Gemini Notebook

「備える、試す、直す」のサイクルが、施設と命を守るレジリエンスを高めます。



平常時の備えが、災害時の希望をつくる

Gemini Notebook

ようこそ晴れの国 おかやまへ
岡山県
Okayama Prefecture

本文へ | Other Languages | 文字サイズ変更 | 元に戻す | 大きくする | 文字色変更／音声読み上げ | やさしい日本語

サイト内検索 Google 提供 検索　ページ番号検索 検索

総合案内 | 分野でさがす | 組織でさがす | カレンダーでさがす

現在地 トップページ > 組織でさがす > 備中県民局 > 井笠地域保健課 > 災害時の栄養・食生活支援について

足あと 災害時の栄養・食生活支援について > 備中県民局トップページ > 災害時の栄養・食生活支援について

災害時の栄養・食生活支援について

印刷ページ表示　ページ番号：0565508　2023年4月3日更新／井笠地域保健課

ポスト　LINEで送る

給食施設での災害時に対する備えについて

給食施設は、災害が発生した際にも喫食者に対して適切で、安全・安心な給食を提供するために、平時から体制の整備や備蓄等の準備をしておく必要があります。

まず、自施設版の「健康危機管理マニュアル・非常災害時対応」を作成し、非常災害時に備えることが重要です。

「給食施設の健康管理マニュアル策定の手引き・非常災害時対応」はこちら

本文 [PDFファイル／3.68MB]

お問い合わせ

備中県民局　井笠地域保健課　地域保健班

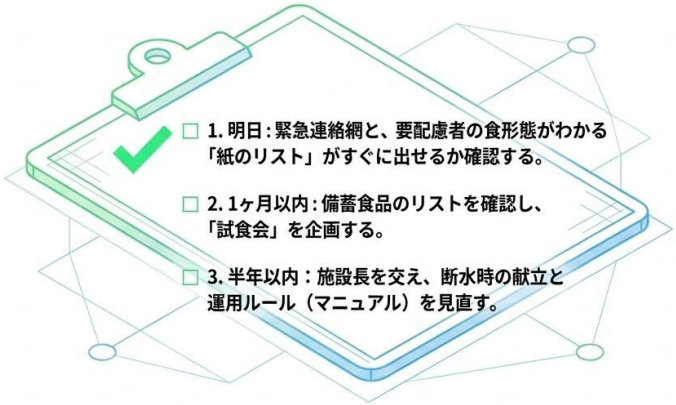
電話番号：0865-69-1673　Fax番号：0865-63-5750

自施設の状況に合わせ、公的な最新ガイドラインをご活用ください。

大阪市保健所	『給食施設における災害時等の食事提供に関する手引き（令和8年3月改訂）』
京都府・京都市	『災害時等の給食提供に関するガイドライン』
宮崎県	『給食施設災害対策マニュアル作成のための手引き』
厚生労働省	『災害時の食中毒予防のために』／『避難所生活を過ごされる方々の健康管理に関するガイドライン』
香川県・高松市	『平常時のセルフチェック表（給食施設用）』

Gemini Notebook

明日、施設に戻って最初に開くべき「青写真」



- □ 1. 明日：緊急連絡網と、要配慮者の食形態がわかる「紙のリスト」がすぐに出せるか確認する。
- □ 2. 1ヶ月以内：備蓄食品のリストを確認し、「試食会」を企画する。
- □ 3. 半年以内：施設長を交え、断水時の献立と運用ルール（マニュアル）を見直す。

災害に強い給食施設への第一歩を踏み出しましょう。本日はありがとうございました。

Gemini Notebook

Thank you